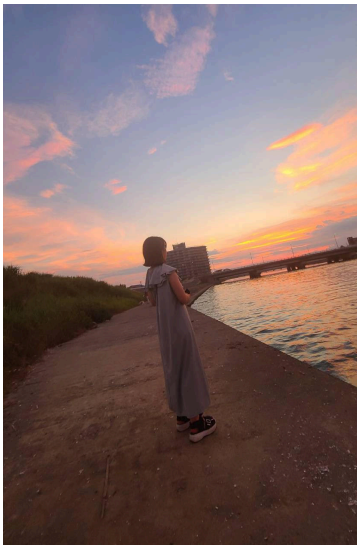
孤独な通信学習を「仲間」と「戦略」で乗り越える！
他校からの移籍で見えたCPAの活用法と、独自の「全予備校網羅」学習術

他校からCPAへ移籍し、見事合格を勝ち取ったM・Sさんにインタビューを行いました。M・Sさんは、通信生でありながら、CPAバーチャル校やSNSを駆使して強力な学習コミュニティを築き上げ、また「全予備校の模試を活用する」という非常にユニークかつ徹底的な学習法を実践されました。
本記事では、M・Sさんが実践された具体的な勉強法、移籍を決断した理由、そして直前期のメンタル管理まで、合格の裏側にあったリアルな戦略を深掘りしていきます。通信生の方はもちろん、学習の進め方に悩むすべての受験生にとって、現状を打破するヒントが満載の内容となっています。

合格者紹介

M・Sさん



経歴：
他校から移籍し合格。CPAバーチャル校など通信生としてCPAのサービスを最大限フル活用。

学習スタイル：
好きな講師の講義を聞き、重要度をベースに学習を進める。

モチベーション：
CPAのサービスで知り合った仲間と約束して勉強するなど、仲間を作り、その仲間に相談してモチベーションを維持していた。

インタビュー

学習コミュニティと「勉強仲間」の重要性

ーーどのように勉強仲間を作られたのか、そのコミュニティについて詳しくお聞かせいただけますでしょうか。

M・S：
私は通信生だったので**「CPAバーチャル校」**を利用していました。そこで開かれる**交流会**や、チーム戦で行う**「せっさたくま合宿」（現在、「CPAメソッドフレームワークPart3道」に変更）**などで知り合った方と、XなどのSNSでも繋がり、やり取りをするようになりました。そこでチャットや通話を通じ、悩みがあれば相談するという形で話を聞いていただきました。

ーーCPAの公式なサービスだけでなく、そこからSNSなどへ派生して関係を深めていかれたのですね。

M・S：
通信生としてチューターさんを利用して質問したこともあるのですが、やはり**個人的な繋がりを作るのは少し難しい**と感じていました。通学であれば顔見知りになって自然とできる関係性が、通信だと名前も分からず判別が難しかったりします。
個人的に知り合った仲間であれば、「今回の模試どうだった？」と心配してくれたりして、非常に相談しやすかったです。勉強方針については講師に相談しつつ、メンタル面や日々の細かいことは仲間に相談するという形で使い分けていました。

ーー精神的な支えとしての仲間の存在が大きかったわけですね。

M・S：
バーチャル校で知り合った方と「毎朝何時に勉強を始めよう」と決めて、**もくもく1on1（バーチャル校のサービスで、少人数で手元を映しながら勉強するコンテンツ）の約束**をしていました。それを短答期から論文期までずっと続けていたおかげで、**学習のリズムを保つことができた**と思います。

通信生のメリットとデメリット、モチベーション管理

ーー通信生のメリット・デメリットはどう感じていましたか？

M・S：
メリットはやはり**移動時間がない**ことです。起きてすぐ勉強を開始できますし、寝る直前まで勉強できます。疲労を感じることなく**勉強時間を最大化**できるのが最大のメリットだと思います。
デメリットは、家に誰もいない環境で一人で勉強されている方などは、**モチベーションの維持がしにくい**点だと思います。私は家族がいたので大丈夫でしたが、完全に一人の場合はしんどいだろうなと感じました。

ーーモチベーション維持の難しさは、CPAとしても課題だと捉えています。その対策としてバーチャル校やオンライン模試、オープン面談などに力を入れているのですが、これらを利用されましたか？

M・S：
答練、面談、講師への相談、チューターなど、大体のサービスは利用しました。バーチャル校に関しては、そこで知り合った方と一緒に**もくもくテーブルをほぼ毎日利用**していました。イベントがある時やオンライン模試を受けたい時にもバーチャル校に入っていました。

ーーオープン面談などの利用はいかがでしたか？

M・S：
模試が近づいてきたり、自分の勉強法に悩んだりする期間には利用していました。直前期は突っ走るだけなのであまり使いませんでしたが、短答が終わった時など、**区切りのタイミング**で利用していました。

通信生の有意性

ーーCPAの通信サービス全体を通して、特に良かった点についてお聞かせください。

M・S：
個人的な感想としては、対面のイベントよりも**バーチャル校での交流会の方が、知り合いを増やしやすく、仲良くなりやすかった**と感じています。
私は他校からの**移籍組**なのですが、友達や仲間を増やすという意味では、バーチャル校の交流会を非常に重宝させていただきました。

ーーそれは興味深いですね。なぜオンラインの方が友達を作りやすいと感じられたのでしょうか？

M・S：
他の予備校に通っていた時は、少人数のクラス制ではなかったのですが、**担任の講師**がついていました。講師とはコミュニケーションを取るのですが、同じ担任がついている**受講生同士が交流する機会はありません**でした。そのため、友達ができるかどうかは個人の社交性にかかっている部分が大きく、自分から話しかけられる人は友達ができるけれど、そうでないと難しい環境でした。
CPAのように「ここは交流しましょう」という場を設けてもらえると、参加者はみんな交流したいと思って集まっているので、すごく繋がりやすかったです。

ーー通常は対面の方が仲良くなりやすいイメージがありますが、あえて「オンラインの方が繋がりやすい」と感じられた理由は何でしょうか？

M・S：
私が住んでいる場所から新宿校に行くのが遠いという事情もありましたが、オンラインの方が**「参加のハードルが低い」**のが大きいです。何回でも気軽に参加できますし、カメラオフでマイクだけで入れるので、**顔出しをしなくていいという心理的な負担の少なさも大きかった**と思います。

ーー負担が少ない分、利用回数が増えて、結果として友達を作りやすくなるということですね。

M・S：
その通りです。

他校からの移籍：学習カリキュラムとカルチャーの違い

ーー先ほど他の予備校のお話が出ましたが、予備校間の違いについてもお伺いしたいと思います。移籍前の予備校とCPAの違い、それぞれのメリット・デメリットをどう感じられましたか？

M・S：
前の予備校で一番良かった点は、短答式試験に受かる前から論文式試験の勉強ができることでした（※なお、CPAでも短答合格前から論文の学習をすることは可能です）。短答に受かる前のカリキュラムとして、合否に関わらず全員が論文の勉強に進み、模試も受けます。そのため、短答に受かった後に挫折しにくいという意味では良いのですが、これがかえって**「短答に受かりにくい」**というデメリットに

もなると感じていました。そこがCPAとの大きな違いだと思います。

ーー他にはありますか？

M・S：
仲間を作りやすいかどうかがだいぶ違うと思います。クラス制や担任制は、逆に**コミュニケーションのハードル**を上げてしまう側面があるかもしれません。「別のクラスなのになぜ話しかけてくるんだろう？」と思われてしまう雰囲気があり、かえって交流しにくい部分がありました。

ーーその点、CPAはクラス制がなく自由度が高いので、交流意欲のある人だけが集まる場が機能しやすいわけですね。では、CPAに移籍することを決めた具体的な理由は何でしたか？

M・S：
前の予備校の受講生だった時に、勉強に行き詰まって**植田講師のYouTube**を見たのがきっかけです。「こういう講師、楽しそうでいいな」とワクワクしたことが一番の理由です。
あとは、**合格率やシェアが高い**ので、「みんなと同じ動きをするべきだ」と思ったことも理由の一つです。さらに、テキストの論点にすべて**ランク付け**（A・B・Cランク）がされている点も魅力的でした。

ーー実際に移籍してみて、ランク付けについてはどう感じましたか？

M・S：
CPAに来て初めて、ここはこれほど重要度が低い論点だったのかと気づくことがありました。例えば管理会計論の「非累加法」などは、前の予備校だと重要論点のように何度もやらされていたのですが、CPAではランクが低くて驚きました。その「常識」を知らずに来たので、CPAの**メリハリのあるランク付け**には安心感がありました。

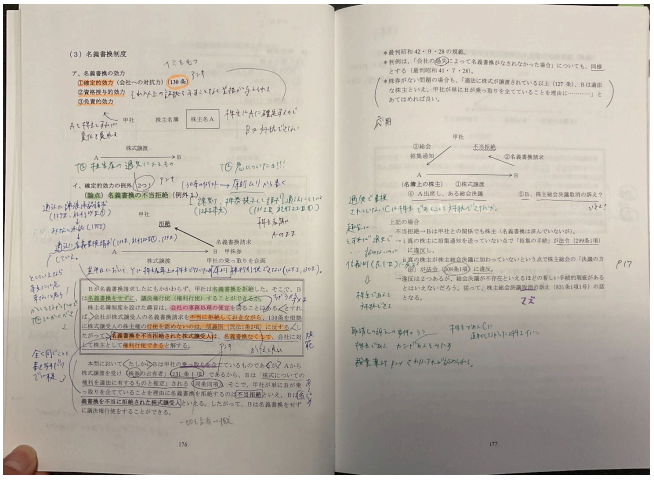
ーー植田講師のYouTubeに惹かれたとのことですが、講師陣の雰囲気やカルチャーも違いましたか？

M・S：
前の予備校の講師は「学校の先生」という感じが強く、真面目ですが、雑談などはあまりないイメージでした。一方でCPAの講師は**ワクワクさせてくれる雰囲気**がありました。

ーー移籍前の期待と、入ってからの実態にギャップはありましたか？

M・S：
期待通りでした。ランク付けも良かったですし、**好きな講師の講義を選べるシステム**も前の予備校とは違って良かったです。何より「楽しそうだな」と思って入って、実際に前の予備校に在籍していた時よりも楽しく勉強できました。

独自の学習法：全予備校の模試を活用した「網羅」戦略



↑M・Sさんが加工した会社法のテキスト

ーー事前にテキストの写真データを頂きましたが、かなり使い込まれている印象を受けました。ご自身で「これは周りと違う」「変わったことをやっている」と思う勉強法はありますか？

M・S：
CPA以外の予備校の模試もたくさん受けたのですが、その**出題論点を色分け**してテキストに反映させていました。これは周りとは結構違う点かなと思います。

ーー他の予備校の論点まで反映させていたのですか？

M・S：
大原、TAC、LECの模試を受けました。「絶対受かるぞ」という気持ちで、**万難を排して臨みたかった**んです。講師の方には「あまり必要ない」と言われたりもして迷ったのですが、ここで決めたいという思いが強かったので実践しました。

ーー具体的にどのように色分けしていたのですか？

M・S：
青色で書いたのが、CPAの答練や模試で出たものです。この青色は**「絶対に押さえないと周りと差がついてしまう」**ものなので、復習のたびに必ず見るよ

うにしていました。他の予備校の出題論点は、緑色のボールペンで書きました。これによって**「どの予備校もここが山だと考えているんだな」**というのが分かるようになり、**出題論点を網羅**するという意味では良かったと思います。

ーーCPAのテキストに他校の出題傾向まで集約させることで、情報の漏れをなくしたわけですね。

M・S：
少しやりすぎたかな、**反映に時間をかけすぎた**かなという反省点もありますが、結果的には良かったと思っています。

学習初期の進め方と「忘却曲線」を用いた復習管理

ーーM・Sさんは学習初期、どのように勉強を進め、モチベーションを維持されましたか？

M・S：
「試験は長くかかるものだ」と最初から思っていたので、そこまで焦りはなく、モチベーションが下がって辞めたくなることはありませんでした。
ただ、**終わりが見えない不安**はありました。何度も「お試し受験」のような形で短答を受けたりして、「本当に受かるんだろうか」という未来が見えない感じはありました。

ーーその不安をどう乗り越えましたか？

M・S：
やはり**予備校を変えた**ことが一番大きかったです。前の予備校のままだったら先が見えなくて不安だったかもしれませんが、CPAに移籍して**「短答特化」**でしっかり鍛えてもらえるという安心感が支えになりました。

ーー具体的な勉強の管理方法などはありましたか？

M・S：
論文期から始めた方法ですが、付箋を使って**「エビングハウスの忘却曲線」に合わせて**復習のタイミングを測る管理をしていました。紙を細長く切って自作の付箋を作り、一番上に「翌日の日付」、その下に「1週間後」「1ヶ月後」「3ヶ月後」といった日付を書きます。そして**復習が終わったらその部分を切っていく**んです。

ーー復習すべき日が可視化されるわけですね。

M・S：
その日付を見れば「今日はこれとこれを復習しなきゃいけない」と分かるので、**機械的に勉強を進められる**という意味でとても良かったです。同じような機能を持った市販の付箋もあるようですが、私は自作していました。

ーー移籍後の講義消化についてはどうでしたか？

M・S：
一応、全講義を見直しました。一度学習した内容ではあるので、分かるところは1.5倍速にするなどして進めましたが、基本的には**全部見て知識の土台を固め直しました**。

生活の中に勉強を溶け込ませる「ながら学習」と音声活用

ーー他の受講生にお勧めしたい、あるいはご自身ならではの工夫などはありますか？

M・S：
休憩の取り方についてですが、私は自宅学習だったので、いつでも好きなことができる環境でした。そこで**「休憩中も勉強する」というスタイル**をとっていました。例えば、**歯磨きをしながら**何かを読んだり、飼っている犬の近くに行って本を読んだりして、**「気分転換しながら勉強」**をしていました。

ーーストレスなく学習を継続するための工夫ですね。

M・S：
加えて、オープンイヤー型のイヤホンをつけて、**犬の散歩をしながら理論の暗記**をしていました。監査論の福田講師は講義をまとめた音声教材を公開していたのでそれを聞いていましたが、財務会計論など圧縮された音声教材がない科目については、自分で論点集の論証部分を**読み上げて録音**し、それを聞いて苦手なところを覚えるようにしていました。

ーー自分の声を教材にするというのは徹底されていますね。最後に、メンタル面でのアドバイスはありますか？

M・S：
答練の結果に一喜一憂しないことが大事だと思います。結果が良いと「このまま行けば受かるかも」と油断したり、悪いと「やっぱり無理かも」と落ち込んだりしがちですが、池邉講師が仰るように、**淡々とこなすこと**が一番大事だと痛感しました。

ーー淡々と続けることの重要性ですね。

M・S：
私が振り返って一番良かったと思うのは、短答式試験で自己採点80%を超え「確実に受かっただろう」と思った直後から、**すぐに論文の勉強**を開始したことです。12月の短答後、周りの通信生仲間が休んでいる間に、租税法などの講義をすぐに受講し始めました。**スタートダッシュが切れた**ことで、周りと差をつけられたかなと思います。

受験生へのメッセージ

ーー受験生の方に何かメッセージをいただけますか。

M・S：
不安が大きいとは思いますが、**勉強を頑張ることができる時間は貴重なもの**です。誰もがやりたくてもできるわけではない『勉強』という時間を楽しむのが一番だと思っています。ぜひ、いい時間にしてください。

まとめ

今回のインタビューから見えてきた、M・Sさんの合格のポイントは以下の通りです。

・能動的なコミュニティ活用
通信生でもCPAバーチャル校やSNSを積極的に使い、悩み相談や「起床報告」などのペースメーカーとなる仲間を作る

・オンラインの利点を最大化
移動時間ゼロのメリットを活かしつつ、オンライン交流会など「顔出し不要」で気軽に参加できる場を利用してネットワークを広げる

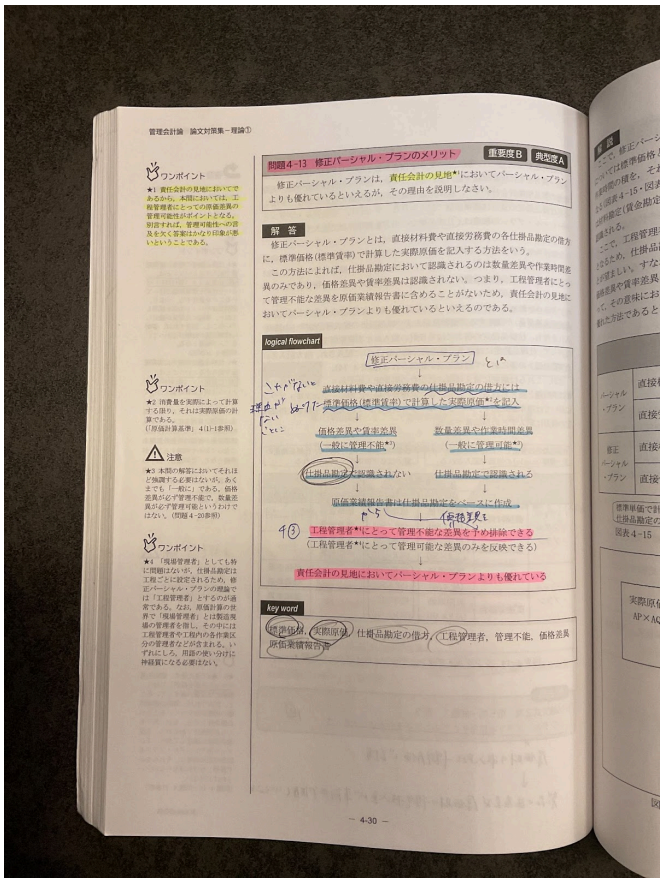
・環境を変える決断
自分に合ったカリキュラムや講師のカルチャーを求め、思い切って移籍することで「楽しんで勉強する」環境を手に入れる

・徹底的な網羅と管理
他校の模試も含めた全論点の色分け管理や、忘却曲線に基づいた付箋管理で、漏れのない学習と機械的な復習サイクルを確立する

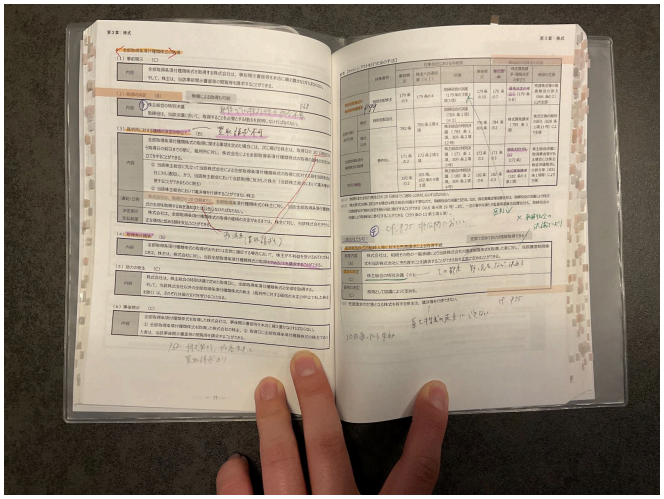
・隙間時間の音声学習
散歩中や休憩中も、自作の音声教材などを活用して生活の一部に勉強を組み込む

・結果に一喜一憂せず、即行動
短答合格確信後、休息せずに即座に論文対策へ移行し、ライバルに差をつける

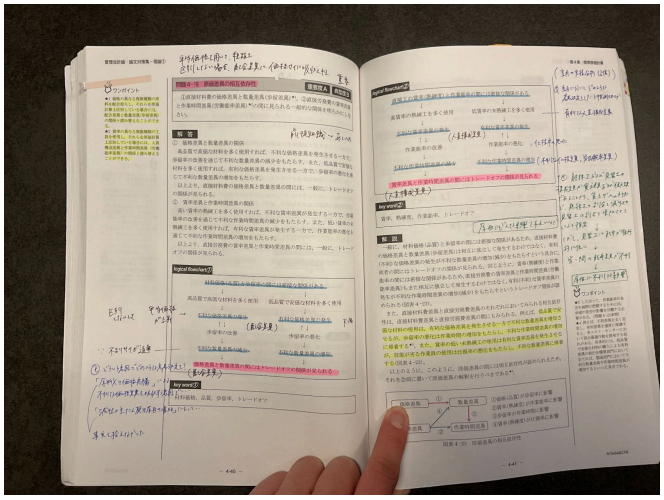
次ページ以降、M・Sさんのテキスト加工を掲載しています。



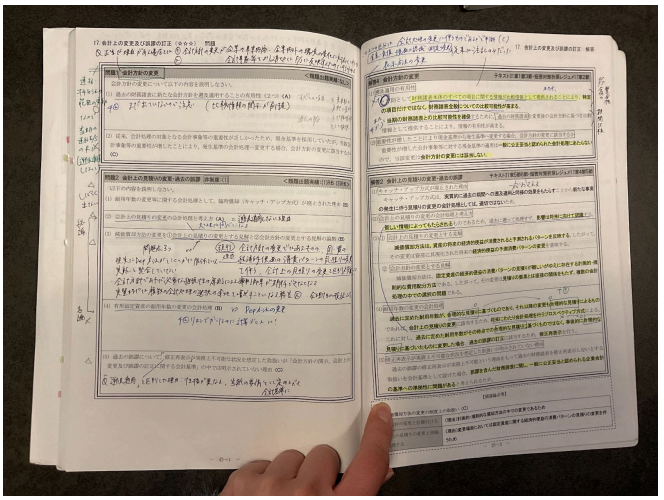
↑M・Sさんが加工した管理論対集

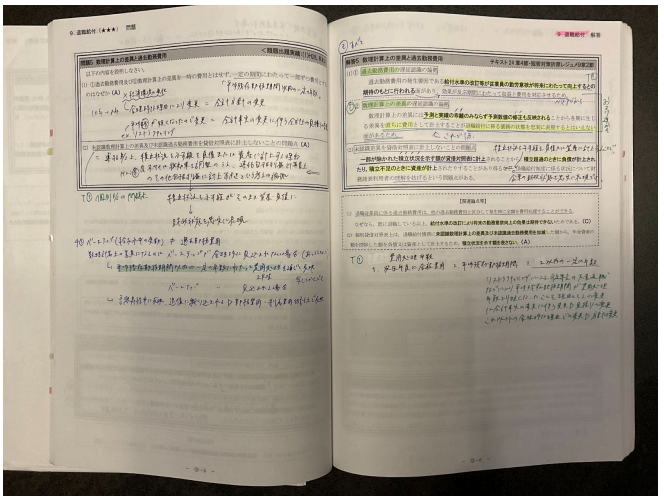


↑M・Sさんが加工した企業法のコンサマ

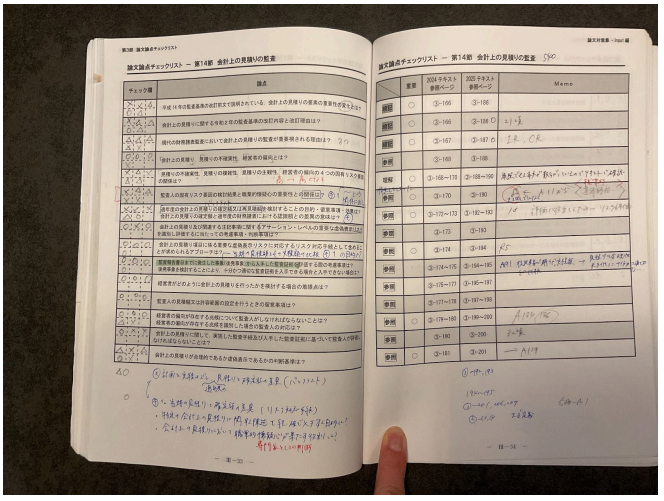


↑M・Sさんが加工した管理論対集





↑M・Sさんが加工した財務理論の論対集



↑M・Sさんが加工した監査論の論対集